

「漁業後継者問題」～南茅部を見つめて～

Fishery Successor Problem ～ Futuring Minamikayabe ～

氏名 角田 偉之 Noriyuki Tunoda 中尾 昭裕 Akihiro Nakao 末永 聡 Satoshi Suenaga 道塚 翔 Sho Michizuka

1. テーマ概要

私たちのテーマは漁業後継者問題です。特に、今年函館と合併した南茅部町に焦点をあてて調査・体験をし、後継者問題を考察しました。

Our theme is a fishery successor problem. We focused on Minamikayabe, and investigated, experienced and considered.

2. 活動内容と役割分担

● 4～7月の活動

漁業の基礎的知識を学びました。また、平成20年、24年の道南の漁業就業者数の推移を市町村別に算出しました。（担当：角田・中尾・道塚・末永）

● 8月の活動

南茅部町にて、4泊5日、昆布漁を体験しました。（担当：角田・中尾・道塚・末永）

● 10月の活動

函館中部高校と南茅部高校の学生を対象にアンケート調査を行いました。漁業に対するイメージ（図1. 図2）や、漁業に関する職に就きたいと思っているかを調べ、都市と漁村での比較を行ないました。

（担当：道塚・末永）

● 10月の活動

これまでの体験や調査を元に、南茅部での漁業形態のモデルを作成し、問題点の把握をしました（図3）。

（担当：角田・中尾）

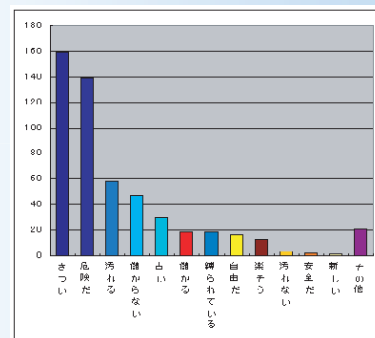


図1. 函館中部高校のイメージ (203人)

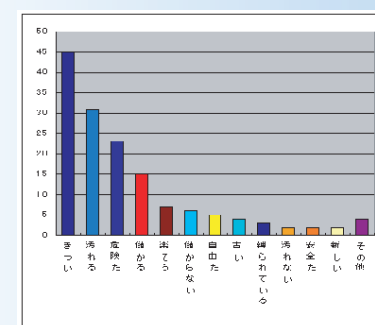


図2. 南茅部高校のイメージ (57人)

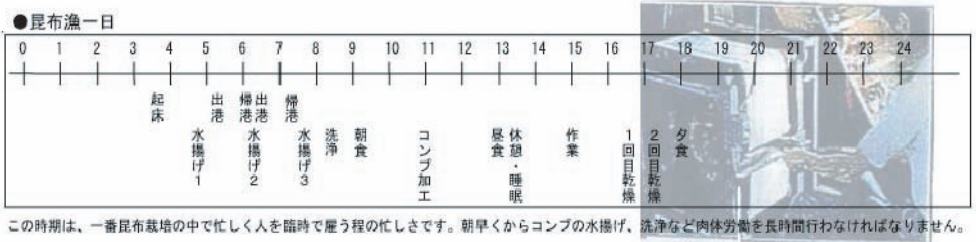


図3. 昆布漁の一日のモデル

3. 考察と結論

現在の減少率のままだと、近く就業者数は漁業が成り立たなくなるような数になります。減少の要因は、資金・技術的に新規参入が難しい、いわゆる3Kである、若者は都会嗜好であるなど様々です。改善点としては、漁業の良い点を認知してもらうこと、漁業形態や生活環境の改善が考えられます。

If it is still the present reduction rate, the number of workers will turn into a number a fishing becomes impossible. The factor of reduction is various, for example, new entry is difficult for a fund and skill, a fishery is 3K, a young man wants to work in a city, etc. It is required that extending a good image and changing a living environment and a fishery form.